

## センチピードグラスの植付研修会を開催しました

水田作業を中心とする農作業は、農地の大型化や農作業の機械化により、作業時間がかなり減少しています。そうした中、農地畦畔の草刈作業は、未だ機械化が進みにくく、農作業が効率化しにくい分野の一つになっています。

そこで、農地畦畔の草刈作業の効率化を図るため、近年グラウンドカバープランツ(※)という技術が全国で普及しています。

### ※グラウンドカバープランツ

グラウンドカバープランツという技術は草で草を抑えるというやり方ですが、今回研修で使用したセンチピードグラスのような被覆植物を農地畦畔に繁茂させることにより他の雑草を抑え、草刈回数や1回当たりの草刈労力を低減させるものです。このほか、カメムシの繁殖を抑え高品質なコメ作りにも寄与します。

今回、このグラウンドカバープランツを普及させるため、多面的機能支払担当者や土地改良区職員等を対象に、センチピードグラスの植付研修会を8月7日(水)砺波市油田地内で開催しました。

当日は気温35度を超える猛暑日であったにもかかわらず、16名が参加し、センチピードグラスのセル苗の植付方法を学び、作業に従事しました。

今後は、1週間~10日間、毎日散水し定着を目指します。



苗箱 セル 5×11=55 苗



1 苗



穴開け用プラ杭(セルと比較)



穴開け(プラ杭、木杭使用)



セル苗の植付



植付後全景

## 土地改良区職員等研修会（センチピードグラス植付）

### 1. 多面的機能支払での取扱

- ・事業メニュー  
①農地維持活動 水田の単価（畑は水田の約2/3）  
3,000円/10a  
②資源向上活動（共同活動） 1,500円～2,400円/10a  
③資源向上活動（施設長寿命化） 3,666円～4,400円/10a
- ・草対策 草刈 ①農地維持活動 実践活動  
作業性確保、病虫害発生低減等のために、畦畔等の草刈  
カバープランツ ②資源向上活動（共同活動） きめ細やかな雑草対策  
畦畔形状確保、雑草抑制等のために、畦畔等への植栽

### 2. カバープランツ（センチピードグラス（ムカデ芝））の概要

- ・原産地： 東南アジア（→高温多雨な環境に向く）
- ・生育高： 約20cm程度
- ・繁茂後草刈： 作業時間は、仮払機26ccナイロコート<sup>®</sup>の場合で通常的な草の半分の感じ  
※高刈りしなくても草の抵抗が非常に少ない、草の巻き付き無し  
高刈りするとさらに短時間作業となる  
※短辺方向の溝畔には植えるが、長辺方向の畦畔には植えないため、草刈回数  
そのものは減らないが、1回当たりの草刈時間が短くなるイメージ  
※斜面草刈機（通常草）< 刈払機ナイロコート<sup>®</sup>（ムカデ芝）< 刈払機ナイロコート<sup>®</sup>（通常草）  
30a区画 1～1.5時間 < 1.5～2時間（短辺のみ植栽）< 2.5～3時間  
※総合的には斜面草刈機が最も効率良いが、石の多い場所では使用しにくい  
通常的な草より滑りやすくなるので、長大斜面への使用や濡れ時作業には注意  
除草剤に弱いので、除草剤散布厳禁
- ・繁茂過程： ランナー（ムカデ）が伸び、繁茂していく（ランナーが出来ないと繁茂しない）  
夏場のランナーは水を求め伸びる。水路内へ垂れ下がるとそこで水を得られる  
ため、広がりにくくなる。  
斜面上方向には伸びにくいものの、道路端部は他の草が侵入せず繁茂しやすい  
繁茂するまでは特に高刈で草刈し、本体をなるべく刈らないようにする  
繁茂までの年数は、植付密度、土質状況にもよるが、3～5年  
繁茂以降は大半の草には勝つものの、クローバーには負ける  
※クローバーは除草剤耐性も強いので、念入りに刈り取る
- ・デメリット モグラ穴が発生しやすい、水路内にランナー垂れる（但し水面位置で止まる）

### 3. カバープランツ（センチピードグラス）の植付

- ・植付時期： セル苗の場合、6月中旬～7月下旬（梅雨時期）
- ・植付準備： 除草剤散布、草刈、刈草撤去
- 今研修 {
  - ・植付位置： 植付位置スタートは法面上部（できれば法肩）、植付間隔は30～50cmが一般的
  - ・植付深さ： セル苗の天端高が地表面より下がる高さとし、その深さの穴をあける（約5cm）  
※上げ気味に植えた場合 → 水が当たりにくい、ランナーが伸びにくい
  - ・植付手順： 穴あけ → 穴に水 → （肥料やり） → 苗かん水後に植付 → 水やり
  - ・植付後： 1週間～10日間程度、毎日水やり（1日2回、もしくは1日1回大量）